

現状維持では後退するばかりである …



昨年度から本格的にスタートした GIGA スクール構想・・・，本市小中学校においても 1 人 1 台端末の活用が急ピッチで進められ，検索サイトやデジタルコンテンツ，プレゼンソフトを共同編集で活用したり，AI 型ドリルを活用して家庭学習に取り組んだり，導入 1 年目とは思えないほど急激で大きな変化の波が押し寄せ，その対応に教職員は追われたことと思います。そして 2 年目の今年も，保護者との連絡ツ

ールとしての機能や，協働学習のツールとしての 1 人 1 台端末の日常的な活用など更に進めなければならないことはたくさんあります。

冒頭の「現状維持では後退するばかりである。」とは，ウォルト・ディズニーの言葉です。彼は生涯，この言葉を胸に，「ディズニーランドはいつまでも未完成である。」として，夢を追い続けたと言います。実は彼に限らず，同じような意味の言葉を，松下幸之助や野村徳七といった経済界の重鎮しかり，ゲーテやナイチンゲールといった世界の偉人も語っています。人間は変わることと恐れを持ち，変えることに不安を持ちます。しかしながら，全てのものが刻々と動き，一瞬一瞬にその姿を変えていくのがこの世の中です。現状に甘んじてしまうことは，即，退歩につながります。今日より明日，明日より明後日と，日々新たな改善を心がけていかねばなりません。

GIGA スクール構想のみならず，不登校対策，インクルーシブ教育，令和の日本型学校教育を担う教職員の育成等，指導主事が研修や学校訪問を通して，全力で学校の取組をバックアップすることで，着実な歩みを進めていけるよう努めてまいります。

宇都宮市教育センター 所長 金子 渉

～ 2022 教育センターの4つの重点 ～

- 1 増加する不登校児童生徒の**社会的自立に向けて，学校・家庭・地域でできることを**考え，連携を図りながら進めること
- 2 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じて，特別支援学級等担当教員の**指導力や学級経営力の向上並びに適切な合理的配慮の提供**を行うこと
- 3 GIGA スクール構想の実現に向けて，「まずは使ってみる」段階から**「教科等の学びを深めるために使う」段階へ**と歩みを一歩前に進めること
- 4 令和の日本型学校教育を担う教職員となるため，自らが**『自分のキャリアマネジメント』**をイメージして，**積極的に研修**に取り組むこと

教育相談事業 1 特別支援教育の推進

本市では、特別な教育的支援を必要とする児童生徒が、自己の能力を最大限に発揮し、社会の一員として地域の中で共に生きていけるように、令和4年1月に改訂した「宇都宮市学校教育における合理的配慮の手引き」を参考に、子ども一人一人の障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等を把握して、特別な指導内容や教育上の合理的配慮を提供できるよう、インクルーシブ教育システムの構築に向けて、特別支援教育を推進していきます。

【令和4年度の取組】

○ 児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導の充実を図ります。

● 教育センター職員による学校訪問相談の実施

特別な教育的ニーズをもつ児童生徒への対応方法や学級経営について、学校からの要請を受け、指導主事や学校生活適応支援アドバイザーが学校を訪問し、学級担任に直接指導助言を行います。また、訪問指導による成果や課題を基に、児童生徒への指導法を紹介する便りを全校に配付することにより、校内支援体制の構築や特別支援教育の推進を図っています。

● 児童生徒の実態に応じた合理的配慮の提供

「宇都宮市学校教育における合理的配慮に係る手引き」（令和4年1月改定）を参考にして、児童生徒の特性や理解度に応じた効果的な学習が充実するよう、施設・設備の整備や、1人1台端末等を最大限に活用することで、個別最適な学びと学習環境の充実を図っていきます。

● 特別支援教育に係る市会計年度任用職員の配置

特別な支援を必要とする児童生徒が、安心・安全に学校生活を送ることができるよう、様々な業務の市会計年度任用職員を配置しています。



特別支援教室（かがやきルーム）担当：94名

⇒ 通常学級で困難を抱える児童生徒に個別・小集団指導を通して教育的ニーズに応じた指導を行う。

特別支援学級担当：28名

⇒ 学級担任一人では学習指導等が困難な特別支援学級において、きめ細かな支援の充実を図る。

医療的ケア支援業務（看護師）：6名

⇒ 保護者の付き添い無しで安心安全に学校生活を送れるように、痰の吸引等の医療的ケアを行う。

学校生活補助業務：5名

⇒ 肢体不自由等の障がいのある児童生徒の移動支援や安全面の配慮を行い、学校生活の充実を図る。

要配慮学級緊急対応業務：18名

⇒ 特性により予測困難な状況に迅速に対応するため、一定期間配置して支援体制の充実を図る。

○ 特別支援学級等担当教員の指導力や学級経営力の向上に取り組みます。

● 特別支援学級等担当教員を対象とする教職員研修の実施

特別支援学級等を担当する教員の指導力や学級経営力を向上するため、教職員研修において、年度初めに集中して教育課程の編成の仕方や一年の流れなどをオンデマンド型で必要なときに確認できる環境を設定したり、児童生徒への適切な関わり方や、日々の授業で活用できる実践的な指導法を、ベテラン教員の授業の動画を視聴したりすることで、特別支援学級担当者としての基礎基本を実践的に学べるようにしています。



教育相談事業 2 不登校対策の推進

教育相談室機能の充実

令和3年度は、教育相談室における受理ケースが1,473件、延べ相談回数6,877回（就学相談を含む）で、このうち、不登校を主訴とする相談では246件に対応しました。より専門的で相談者に寄り添った対応に努めています。

相談内容 不登校・登校渋り、「適応支援教室」や「相談学級」の利用に関すること、そのほか集団不適應、情緒不安定など

相談日時 【月～金曜】9:00～17:00 【日曜】13:00～17:00（月1回）

申込方法 電話による予約 028-639-4380

不登校対策の推進

不登校が心配される児童生徒の早期発見・早期対応の取組の徹底と、将来的な社会的自立に向け、多角的・多面的な不登校支援の充実を目指します。

○ 学校における不登校対策

- ・ 不登校対策の手引書に基づいた組織的・計画的な取組を行います。
- ・ 不登校の未然防止を意識し、日頃からきめ細かな対応を行うなど、学級経営を充実します。
- ・ 「欠席状況共有シート」「楽しい学校生活を送るためのアンケート（Q-U）」を活用した、適切な目標設定・支援策の検討を行います。
- ・ メンタルサポーター等を活用した別室支援の充実を図ります。
- ・ 1人1台端末を活用し、児童生徒とのつながりを大切にしながら双方向で行える支援の工夫を行います。

○ 教育センターにおける不登校対策

- ・ 不登校対策チームにおける学校支援を行います。
- ・ 教員のコミュニケーションスキルと不登校対応力の向上のための研修を行います。
- ・ 別室登校の児童生徒を支援する学生ボランティアの派遣を行います。
- ・ スクールカウンセラー・メンタルサポーターの派遣を行います。
- ・ フリースクール等の民間施設との連携を行います。

利用にあたっては、教育センターでの相談が必要となります。

学校復帰や社会的自立に向けて新たな一歩を踏み出すための支援の場

適応支援教室「とらいあんぐる」

教育センターでの相談開始後、当面の居場所として気軽に利用できる教室です。通いながら、学校復帰を目指したり、まちかどの学校の利用や相談学級入級など、今後に向けた相談を行ったりします。



適応支援教室「まちかどの学校」

児童生徒の状態に合わせて、個別活動と教室に似た形式で行う小集団活動を行っています。多くのボランティアを活用し、児童生徒の活動の幅を広げるとともに、自信の回復や対人関係力の育成を図ります。



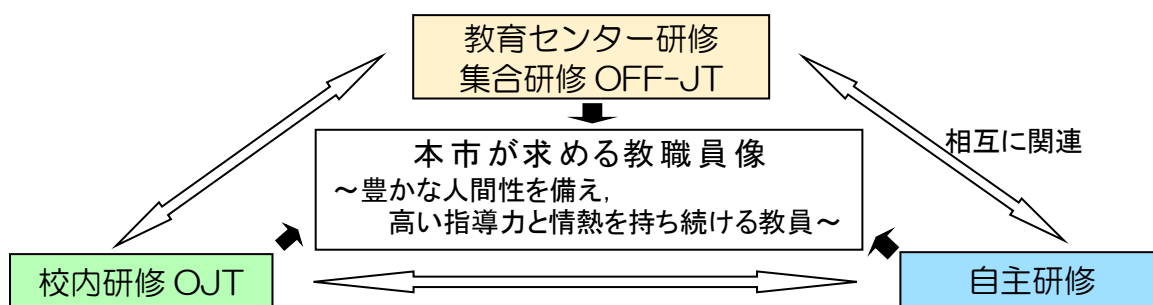
相談学級

不登校対応を専門とする特別支援学級として、学習や運動に時間をかけてじっくりと取り組めるよう独自の日課を編成しています。校内設置のメリットを生かし、通常の学級への授業や学校行事への参加等、活動の幅を広げることもあります。転校手続きを行って入級します。

- 築瀬小学校、旭中学校に設置

研修事業

本市の教職員として求められる資質能力を確実に育成するため、「宇都宮市教職員研修計画」を策定し、キャリアステージに応じた研修を実施しています。



「令和の日本型学校教育」を担う新たな教職員の学びの姿の実現に向け、「教育センター研修」（集合研修（OFF-JT））の他、学校における校内研修や授業研究・事務改善に代表される教職員同士の学び合い（OJT）や自主研修を相互に関連させ、一人一人が、主体的な学びのマネジメントを構築し、本市が求める教職員を育成します。

また、各研修が教職員のキャリアアップとどのように体系的に位置づけられているかを明確にすることで、今後の方向性を見通し、主体的・計画的に自己の資質能力を向上できるよう「各種教職員研修を通じたキャリアマネジメントのイメージ」を作成しました。各研修の実施にあたっては、これに基づいて行います。

教育センター研修	ステージⅠ おおむね1～5年目	ステージⅡ おおむね6～10年目	ステージⅢ おおむね11～19年目	ステージⅣ おおむね20年目～
基本研修 教職員のキャリアステージに応じて必要とされる資質能力を育成する研修	初任者研修 2年目研修 3年目研修	5年目研修	中堅教諭等 資質向上研修	20年目研修
専門研修 職位や職務等に関する知識・技術を身に付けたり、教育に関する喫緊の課題並びに教職員のニーズに対応して指導力の向上を図る研修	学校教育相談 基礎研修 (教職4年目)	特別支援教育の視座を取り入れた授業力向上研修 (教職6・7・8・9年目)	コミュニケーションスキルアップ研修 (教職15年目) 学校運営推進リーダー養成研修 (指名された教員)	キャリアマネジメント 研修(教職30年目)
	指名研修 本市独自に経験年数に応じて受講者を指名して実施			
	教科等・職務別研修		校長研修等職位別研修	
	指定研修 職位や職務に応じて受講者を指定して実施			
	希望研修 受講希望者を学校から募集して実施			

専門研修の充実

<令和4年度の重点>

(1) 学び続ける教師を支える研修機会の充実

- 育成指標及びキャリアイメージに基づいた研修の実施
- GIGAスクール構想の推進、不登校対応力の向上、教科担任制における専門的な教科指導力の向上など、ニーズに応じた希望研修の充実

(2) 日常的なOJT、校内研修等の充実

- 経験年次研修での集合研修の学びと、校内研修の往還を図る課題研修の実施
- 若手教員・事務職員育成システムにおけるOJTの活性化
- 要請訪問及び校内研修サポート事業等を通じた学校課題への指導・助言

(3) 学校における働き方改革の推進

- 学校組織マネジメント研修を通じたリーダー教員の育成と「チーム学校」としての組織的対応力の強化
- 集合研修とオンライン研修のそれぞれの良さを生かした研修の実施

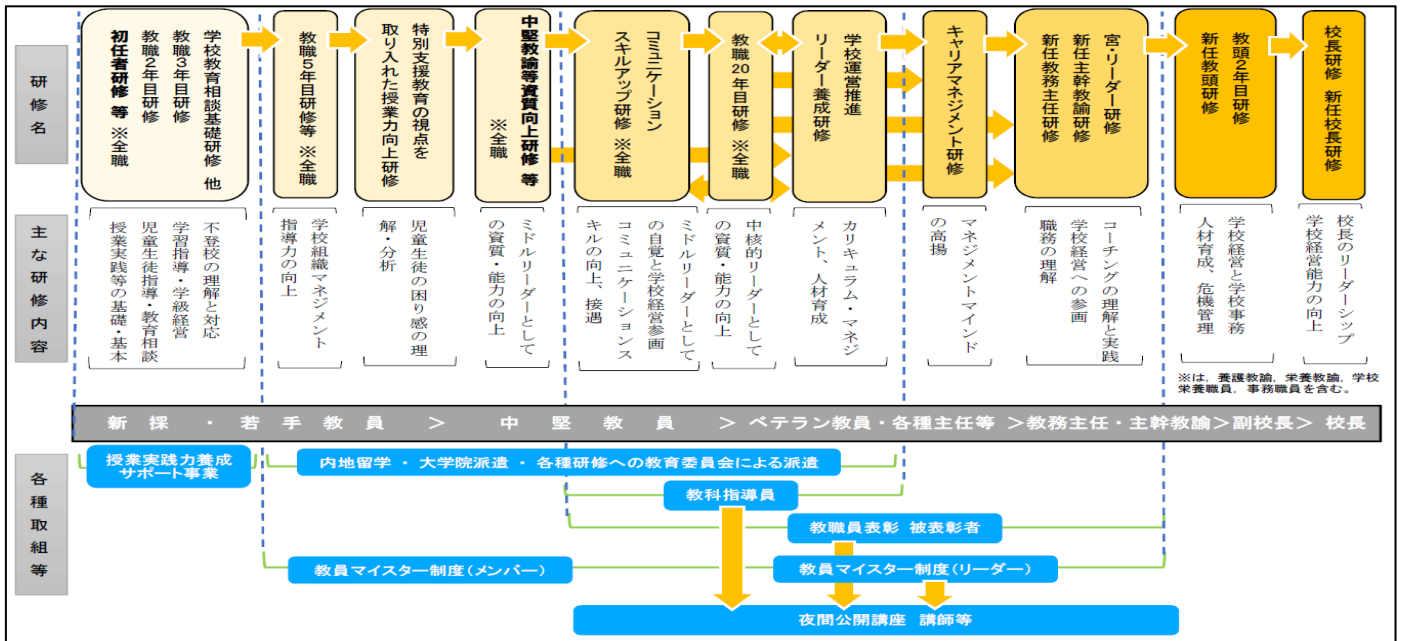
校内研修

- 若手教員育成システム
- 若手事務職員育成システム
- 校内研修サポート事業

自主研修

- 教員マイスター制度
- 授業実践力養成サポート事業
- 夜間公開講座「教育なう」

各種教職員研修を通じたキャリアマネジメントのイメージ図



調査・研究事業

学校教育の充実及び振興を図るために必要な事業として、教育に関する今日的課題等について調査及び研究を行っています。

今日的な教育課題に関する調査・研究

- 教育委員会主導で、教職員を指名して行う調査・研究
 - ・ 「冒険活動教室が児童生徒の自己肯定感に与える影響」の調査研究
 - ・ 学級経営力向上プロジェクト
 - ・ 一人一台端末授業活用に係る調査研究

学校や教員の主体性を重視した公募制による調査・研究（校内研修サポート事業）

各学校の校内研修（授業研究会）を支援し、大学教員等講師を年間4回程度派遣して、授業実践と結び付いた実践的研究や校内研修の効果的な在り方を追求することを通して、校内研修を活性化し、学校組織の協働性や同僚性の向上を図る取組を行っています。

＜研究校と派遣されている講師＞

- ・ 宮の原小学校 <宇都宮大学大学院教育学研究科教授 人見 久城 先生>
- ・ 横川中央小学校 <元宇都宮大学大学院教育学研究科教授 松本 敏 先生>
- ・ 横川東小学校 <宇都宮大学大学院教育学研究科准教授 司城 紀代美 先生>

教育に関する資料及び情報の収集・提供【教職員対象】

教育に関する資料及び情報の収集・提供を通して、自主研究への支援を行っています。

- 教育関係図書・資料の収集と整理
 - ・ 最新の教育課題等に沿った教育関係図書等を収集しています。
- 教育関係図書・資料の貸出
 - ・ 教育センターに来所し、資料を確認して借りることができます。
(火・木曜15:30~19:00のみ開館)
 - ・ 図書資料に関する情報は、学校用事務システムの教育資料検索サービスから検索し、貸出申請をできます。逡送を利用し、図書資料の貸出・返却の利便性の向上を図っています。



情報教育事業

【令和4年度の取組】

- ICTを日常的に学習や校務に活用できる環境整備に努め、「GIGAスクール構想」推進のために整備された1人1台パソコンを活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指します。
- STEP1「授業内外で端末を日常的に使う」から、STEP2「協働学習ソフト等を活用した授業を行うことができるようにする」へ、できることから、ステップアップの取り組みを支援します。
- ICTの責任ある利用の仕方を身に付けることを含め、児童生徒の情報活用能力の計画的な育成に努めます。

GIGA スクール構想の実現

クラウドサービス活用のための
情報教育研修の充実

宇都宮市 GIGA スクール
特設サイトの運営

宇都宮市のGIGAスクール構想
についての周知

保護者向け Q&A 作成や各種問
い合わせに係る情報の掲載

GIGA スクール構想に関す
る最新情報の収集・公開

ICT 支援員による
学校支援

教職員の校務支援・ICT 活用
のための校内研修の実施

端末や通信ネットワークの
保守運用管理

児童生徒、教職員の ICT に
係る授業支援

情報セキュリティ
対策

情報セキュリティポリシーの周知

センターサーバによる
セキュリティ対策

教職員校務用
パソコンの運用と
ネットワークの管理

校務用ネットワークの安定運用

クラウドサービスアカウント・
アプリケーションの運用管理

児童生徒の
情報活用能力の育成

1人1台端末の日常的な活用推進

プログラミング教育年間指導計画に基づく
小学校プログラミング教育の実践

デジタルシティズンシップ教育
の実践、指導資料・計画の作成

「第2次宇都宮市学校
教育推進計画後期計画」の
策定に伴う「第3次宇都宮
市学校 ICT 化推進基本計
画」の策定



授業における1人1台端末の活用推進

令和4年度は、令和3年度にスタートした「GIGAスクール構想」の実現を目指し、1人1台のパソコンを使った学びを、深めてゆく年となります。全ての学校において、授業における1人1台パソコンの活用が進められるよう、学校をサポートしていきます。

- GIGAスクール構想の実現に向けて、1人1台端末（児童生徒の個人用パソコン）を、授業の中で積極的に活用し、深い学びの実践を目指します。
- 学校において教職員のICT活用をサポートするICT支援員を配置し、研修等を充実させ、教職員のICT活用スキルの向上を図ることにより、校務の効率化を進めます。